

## 英米学科 卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

外国語学部英米学科は、基盤教育による基盤力に加え、英米学に関する専門教育を通して、以下の能力を有すると認めた者に学士（英米学）の学位を授与します。

### ■ 豊かな「知識」

世界の文化的・社会的事象に関わる幅広い知識を基盤に、コアとなる「英語学・英語教育」「国際文化社会」「グローバルビジネス」のいずれかの専門分野に関する知識を体系的・総合的に身につけている。

### ■ 知識を活用できる「技能」

英語の4技能（読む・聞く・話す・書く）の修得に加え、英米及び英語圏を中心に世界の文化・社会的な背景の理解のもと、国際社会で活躍するために必要な高度な英語を適切に運用できる能力を身につけている。

### ■ 次代を切り開く「思考・判断・表現力」

流動的に変化している国際情勢や世界の文化・社会の諸問題に関する学修を通して、グローバルな視点から事象を多面的に捉え、学際的・複眼的に思考して解決策を探求し、多様な人種や文化を背景に持つ社会の中で、自分の意見を英語で明晰に表現することができる。

### ■ 組織や社会の活動を促進する「コミュニケーション力」

広く国際的な視野を身につけるための学修を通して、多種多様な国籍の文化や言語を背景に持つ他者と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

### ■ 社会で生きる「自律的行動力」

英語や異文化に関する学修を通して、文化・社会への関心とキャリア意識を持ち続け、広い視野を持つ国際人として、主体的に行動できる。

# 英米学科 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

外国語学部英米学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を実現するために、以下のとおり教育課程を編成し、実施します。

## 教育課程の編成

### (編成の方針)

- 1 英米学科では、高い英語運用能力を1・2年次のうちに修得できるよう英語の集中プログラムを編成し、海外留学等を目指すほか、科目の性質をふまえながら、学生のレベルに応じた英語による専門教育を編成する。英語による論文作成を目標に、3・4年次に演習科目を編成する。
- 2 専門教育は、世界の文化的・社会的事象に関わる幅広い知識とともに、「英語学・英語教育」「国際文化社会」「グローバルビジネス」の専門分野に関する知識、思考力を、学生のキャリア意識を高めつつ、学生の選択に応じて、体系的・総合的に修得できるよう、コアプログラム制を編成する。
- 3 主体的に多様な人種や文化と交流できることを目的として、留学のほか、海外ボランティア活動、地域の国際活動等の実践科目を配置する。
- 4 以上の専門教育科目に加え、社会で生きていくための基盤力を育成する基盤教育科目をもって英米学科の教育課程を編成する。

### (教育課程の構成)

※ ( ) は卒業に必要な最低単位数で、卒業要件単位数 124 単位の内訳

英米学科の教育課程は、編成の方針に基づき、専門教育科目(84)と基盤教育科目(40)で構成する。

専門教育科目は、「アカデミック英語」「専門入門科目」「専門科目」「実践科目」「ゼミ・卒業課題科目」の5つの科目群から成り、各科目群の編成は次のとおりとする。

- 1) 「アカデミック英語」(8) は、英語集中プログラムの専門課程としてアカデミックな英語を学ぶための科目群として、1・2年次に配置する。また、海外の大学院への進学やまた広くキャリア形成に役立てるための科目を4年次に配置する。
- 2) 「専門入門科目」(6) は、1年次の1学期終了後において自己のベースとなる専門領域を決定できるよう、1年次に授業科目を配置する。
- 3) 「専門科目」(40) は、「Language and Education」「Society and Culture」「Global Business」の3つのコアプログラムから一つ選択し、「ゼミ・卒業課題科目」で研究を深められるよう順次的、体系的に科目編成する。

・ Language and Education Program … 英語を学問的に研究し、教員や通訳者など英語のスペシャリストを目指す学生向けに、英語学や英語教育、国際教育、通訳に関連した科目を配置する。

・ Society and Culture Program … 世界の文化・社会事象を学び、問題解決に向けて考え、行動できる人材を育成するため、文学、地域研究、翻訳、国際社会、文化、メディアなどに関連した科目を配置する。

・ Global Business Program … 流動的な国際ビジネスを学び、グローバル

に活躍できる人材を育成するため、観光ビジネス、国際経営、経営組織、経営戦略などに関連した科目を配置する。

- 4) 「実践科目」(2)は、実践力を修得するための「特定課題科目」及び海外留学・語学研修等の「留学プログラム科目」を配置する。
- 5) 「ゼミ・卒業課題科目」(12)は、各コアプログラムにおいて専門分野における課題発見・解決力とプレゼンテーション力を高め、卒業論文を作成するため、3、4年次に必修科目として配置する。

### 教育の内容・方法

- ・ 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより、又はこれらの併用により行う。
- ・ 学生が主体的に学び、協働して課題解決に取り組むとともに、学習意欲・関心を高め、生涯にわたって学び続ける力を養うため、課題解決型学習(PBL)、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなど能動的学習(アクティブ・ラーニング)の手法を授業形態に応じて効果的に取り入れる。  
また、学生の実践力の育成とキャリア意識の醸成のため、国内外インターンシップや国際ボランティア等への参加を積極的に奨励し評価する。
- ・ 予習・復習等、授業時間外の学修について、学修行動調査などによる調査・把握を行いながら、シラバスへの内容記載や授業での喚起等により、適切な学修時間の確保を促す。
- ・ 単位の実質化を図るため、履修登録単位数の上限を各学期 26 単位とする。

### 学修成果の評価

- ・ 授業科目の成績評価は、試験、受講態度、並びにレポートや課題、ディスカッション、プレゼンテーションへの取組状況や成果などによって厳格に判定する。成績が一定の水準に達したと認めた場合に、所定の単位を認定する。
- ・ 3年次に進級するためには、2年次終了までにおいて、所定の科目を含めた 48 単位、また卒業の要件は、所定の科目を含めた 124 単位以上の修得を必要とする。
- ・ 各授業科目の成績を基礎とした総合的な学業成績として、累積 GPA を算出し、成績優秀者表彰や早期卒業、留学対象者の選定などに用い、学修意欲の向上を図る。
- ・ 学生への授業評価・学修行動調査等を実施し、個別科目での学生の理解度や各講義・授業への要望をはじめ、学修達成状況などを把握し、その結果を授業や教育課程の改善に役立てる。